

個性

小五

わたしのクラスには、特別支えん学級の友達がいます。その子は、喜怒哀楽がはっきりしているのです、ときどき側にいるのがこわくて、さけることもありました。そんなある日、席がえでその子ととなりになりました。私は少し心の中で、「大じょう夫かな、急に泣いたり、おこったり、文句を言ったりしないかな。」と心配に思っていました。家に帰り、そのことをお父さんに話してみました。なぜお父さんに話したかというと、お父さんは、仕事でよく病院や高れい者施設に行き、いろいろな人と会っていて何かヒントをくれ

ると思ったからです。すると、お父さんはこんなことを話し始めました。

「その子は、ある意味すごいんだよ。なぜか知ってる？ 特別支えん学級にいる子は、みんなとちがう才能、技術、知識などをもっているんだよ。だから、その子のことを大切にしたいほうがいいし、その子がこわいからといって考えなどをせめたり、こわしたりしてはだめだよ。」

と言っていました。初めは、理解できなかったところがありました。

その一週間後、特別支えん学級の子たちが工作をした物をてん示する、「ミニ太陽てん」がありました。それを見たとき、私の頭の中にお父さんの言葉がうかびました。その理由は、お父さんの言葉どおり、私の頭や手を使って

もできない物を作っていたし、考えや発想が全くちがっていておどろいたからです。そのとき、少しだけお父さんの言葉を理解できました。

新しい学年になったとき、その子と同じクラスになりました。わたしは、となりの席になったときにお父さんの言葉を思い出しました。話し合うときなど、その子の考えや個性を大切にしたい、みんなの意見をふまえて、先生に提案しました。すると、その子はうれしそうでした。そうしたら私まで、うれしくなりました。

わたしは、ふだんのくらしを幸せにするには、それぞれの人の個性を尊重することが大切だと思います。人の個性は、名前のようにちがっています。わたしは一人一人が、おたがい

のよさをみとめ合い、足りないものを
おぎない合うことで、みんなが笑顔に
なり、その笑顔が広まると、みんなが
幸せになれると思います。わたしは、
これからの生活や家族との関わりの中
でも、出会った人のよさをたくさん見
つけてみんなの個性をそん重していこ
うと思います。